

■ 0, 1, 2 歳児の親



■ 3, 4, 5 歳児の親

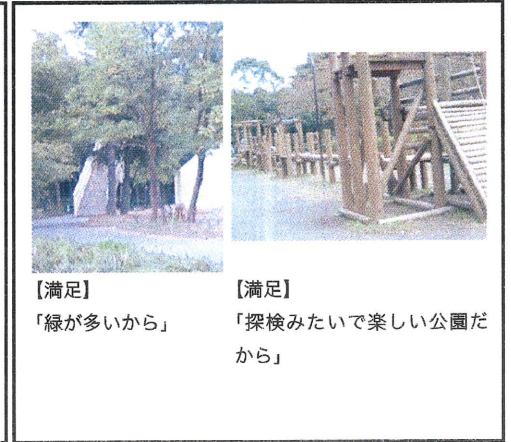
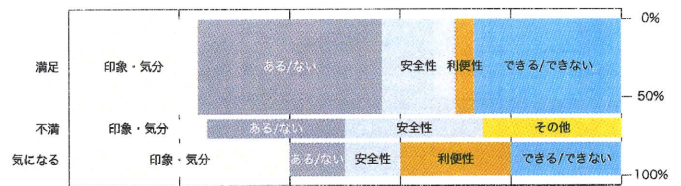


図4-14 こどもの年齢による公園を評価した写真と記述

■ 0, 1, 2 歳児の親



■ 3, 4, 5 歳児の親

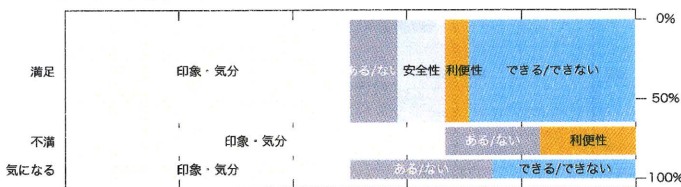
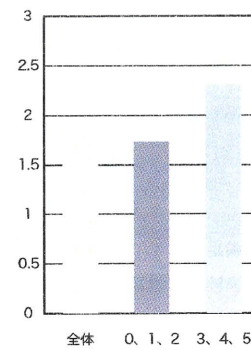


図4-15 こどもの年齢による公園に対する認識の割合

■ 1人あたりの記述件数



「公園」は満足と評価された要素の中で2番目に多く示しており、公園の評価の中では約70%の満足度を得ている。公園を撮影した理由については印象・気分や「ある/ない」、「できる/できない」による記述が多く見られた。公園を撮影した理由のうち「できる/できない」では22件のうち16件が「遊ぶことができるから」ということから満足していることがあげられている(図4-13)。

D.3.1 こどもの年齢による「公園」

0, 1, 2 歳児の親と3, 4, 5 歳児の親両方とも公園に対する満足の割合は変化が無いが、0, 1, 2 歳児の親は不満より気になると評価した割合が高く、一方で3, 4, 5 歳児の親は「気になる」不満と評価した割合が高い傾向がある。0, 1, 2 歳児の親が気になると評価したものは「人通りの少ない公園は犯罪の場所になるから気になる」、「公園にゴミがいっぱいだから気になる」など否定的評価がほとんどであり、不満とは言

えないが否定的に捉えていることを気になると評価した傾向がある。また、0, 1, 2 歳児の親は「公園には色々な遊具があるから満足」、「並木公園には遊具が沢山あるから満足」など公園に遊具が「ある」ことからの満足の評価が多く見られる。3, 4, 5 歳児の親は印象・気分により評価していることが多く、その例としては「公園は緑が多いから」、「永山南公園は探検みたいで楽しい公園だから」などが上げられている(図4-14, 15)。

D.3.2 利用している保育サービスによる「公園」

保育所を利用している親、幼稚園を利用している親、保育サービスを利用していない親は公園に対する満足度が約60%で高い傾向がある。だが、その他の保育サービスを利用している親は他の属性に比べては満足度が低い傾向がある。保育所を利用している親は公園を撮影した件数が少ないことから利用頻度が少ないため、必要に迫られることより印象・気分などから評価したと考えられる。幼稚園を利用している親と保育サービスを利用していない親は記述の割合が類似した傾向が

■保育所を利用している親

■幼稚園を利用している親

■保育サービスを利用していない親



■その他の保育サービスを利用している親

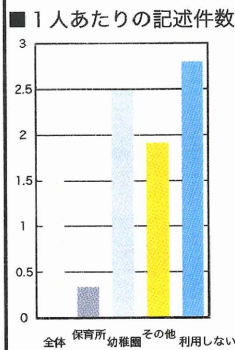


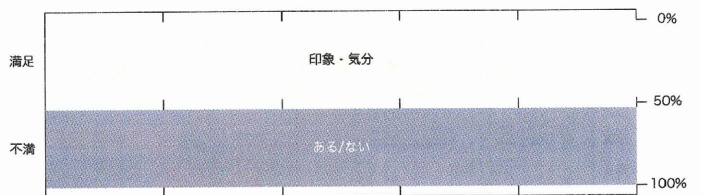
図4-16 利用している保育サービスによる公園を評価した写真と記述

ある。幼稚園を利用している親は「諏訪南公園は静かだから満足」、「広い公園があって野球の試合ができるから満足」など印象・気分と「できる/できない」による記述が多く見られる。その他の保育サービスを利用している親は公園を撮影した理由にあたって「公園に遊具が沢山あるから満足」、「公園にいい遊び場があるから満足」など公園内の遊具の充実度から満足と評価していることが多い。保育サービスを利用していない親は「公園が広くて思いっきり走れるから満足」、「公園に野球場とか広いところがあるとボール遊びができるから」など、記述内容でも類似した例がみられている(図4-16, 17)。

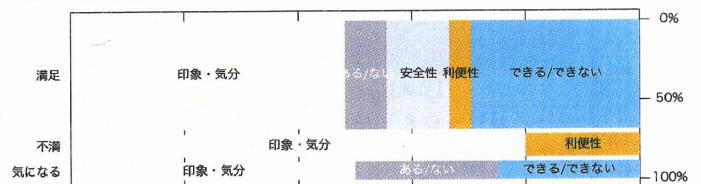
D.3.3 こどもの性別による「公園」

公園に対する評価の割合は両方とも差は無く、満足度が高い傾向がある。男の子の親は印象・気分による評価より「公園ではこどもが安心して遊べるから満足」などの安全性、「公園では環境がいいから散歩す

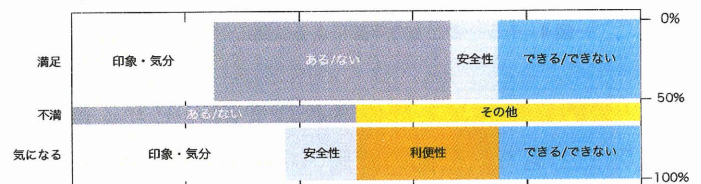
■保育所を利用している親



■幼稚園を利用している親



■その他の保育サービスを利用している親



■保育サービスを利用していない親

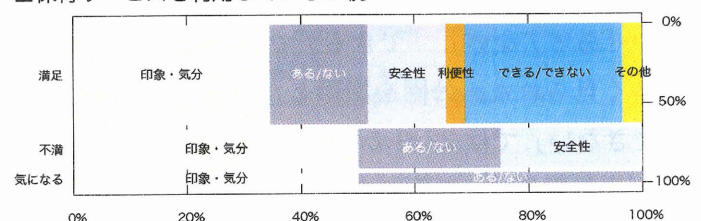


図4-17 利用している保育サービスによる公園に対する認識の割合

ることができるから満足」などの「できる」による評価が多くみられ、必要に迫られることから評価へつながっていると考えられる。女の子の親は「永山南公園は広いから満足」、「公園が多いから満足」などの印象から評価につながっている傾向がある(図4-18, 19)。

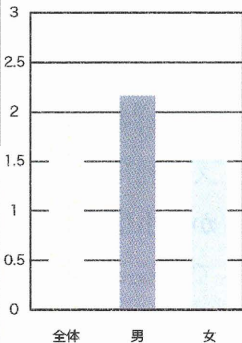
D.3.4 こどもの人数による「公園」

両方とも公園に対して満足度が高い傾向が見える。

■ 男の子の親



■ 1人あたりの記述件数



■ 女の子の親

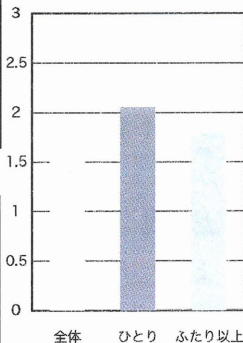


図4-18 こどもの性別による公園を評価した写真と記述

■ こどもがひとり



■ 1人あたりの記述件数



■ こどもがふたり以上



図4-20 こどもの人数による公園を評価した写真と記述

■ 男の子の親

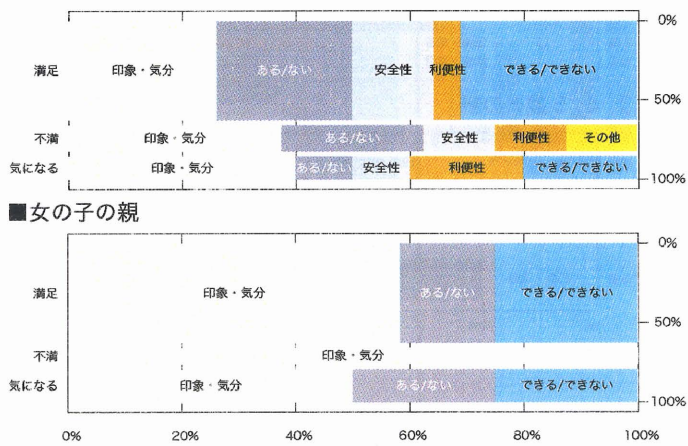


図4-19 こどもの性別による公園に対する認識の割合

■ こどもがひとり

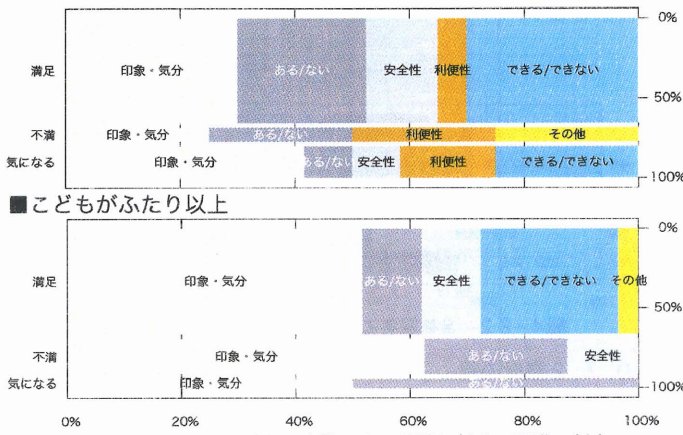


図4-21 こどもの人数による公園に対する認識の割合

子育てが初めての親は印象・気分による評価よりも安全性、利便性、「できる/できない」の記述から公園を取り上げている。「人々が集う公園は安心して遊べるから満足」、「この公園は家から近いから便利だし、車と自転車がいらなくて安全、水もある、とても便利だから満足」などの記述から、実質的な理由から公園を評価している。だがこどもがふたり以上の、子育ての経

験がある親は利便性に関する記述は見当たらず、ほとんどが「公園は緑が多いから満足」、「公園の緑は子供が季節を感じられるから」、「公園でこどもが楽しそうに遊ぶから」などの印象・気分により評価している(図4-20, 21)。

D.4 親の属性による環境認識の比較 ~遊ぶための場所・遊具

遊ぶための場所・遊具は公園の中に設置してあるものがほとんどであり、全体的な評価は満足が多い傾向がある(図4-22)。

#### D.4.1 こどもの年齢による「遊ぶための場所・遊具」

0, 1, 2歳児の親は「公園のあちこちに遊具があるからどこでも遊べるから満足」、「遊び場の近くにトイレがあるから満足」など「ある/ない」からの評価が多く見られる。3, 4, 5歳児の親は満足より不満と評価した割合が高く、「砂場に木影になる木が近くにないから不満(春～夏や晴れた日はあった方が遊びやすいから)」、「公園が好きな世代の子供には登れない滑り台だから不満、階段のステップを小さい子供でも登れるように作るべき」、「子供がたくさんいる一番近い公園なのにいつも不衛生でカチカチの砂場なのでもう少し手入れして欲しいから不満」など不満に対する改善の方向をしめしている記述が多い(図4-23, 24)。

#### D.4.2 利用している保育サービスによる「遊具」

保育所を利用している親は遊ぶための場所・遊具を評価した件数が少ない傾向がある。中には「車止めを鉄棒の代わりに遊具として使っていて子供が楽しそうだから満足」などの記述が見られ、他の保育サービスの利用者にくらべて公園の遊具の認識度が低いと考え

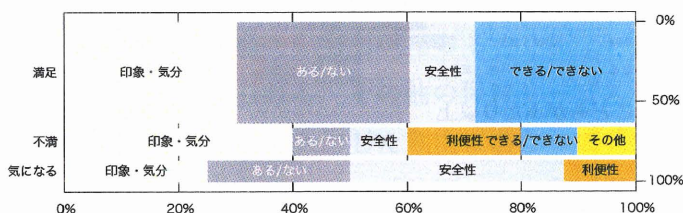


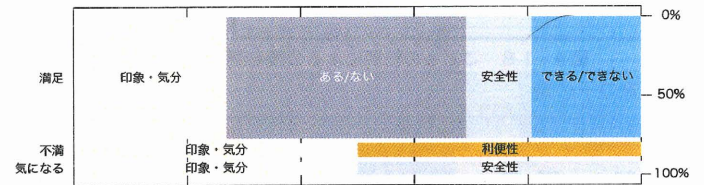
図4-22 全被験者における遊具に対する認識の割合

られる。幼稚園を利用している親は遊ぶための場所・遊具に対して不満と評価した割合が満足より多く、「第一公園は遊具が少ない」、「緑が多いのはいいが、遊具が全くなく暗い感じがするから」などの理由から不満と評価している。その他の保育サービスを利用している親は不満の評価が0件であったが気になると評価が多い傾向が見えた。「遊具の定期検査の怠りは事故につながるから気になる」、「遊具が一つあるが周囲は木々でうっそうとして、ひっそりしているのでややさみしいから気になる」などの記述が見られた。保育サービスを利用していない親は「スプリング遊具は小さい子から小学生まで遊べるから満足」「河原の遊具は散歩もできるし遊べるから満足」など遊具により遊べることからの満足の記述が多く見られた(図4-25, 26)。

#### D.4.3 こどもの性別による「遊ぶための場所・遊具」

男の子の親も女の子の親も遊ぶための場所・遊具

##### ■ 0, 1, 2歳児の親



##### ■ 3, 4, 5歳児の親

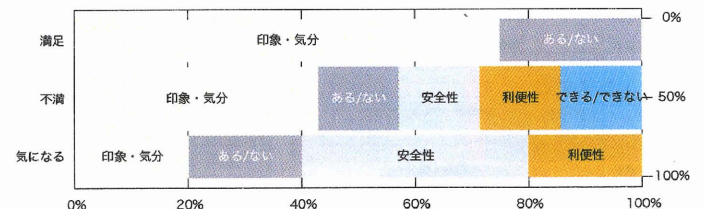
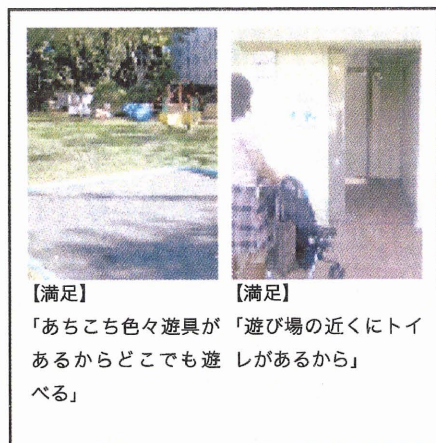


図4-24 こどもの年齢による遊具に対する認識の割合

##### ■ 0, 1, 2歳児の親

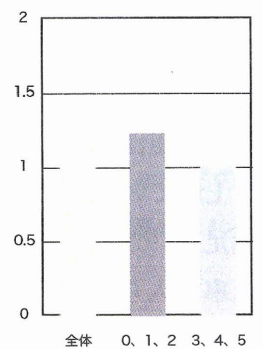


##### ■ 3, 4, 5歳児の親



図4-23 こどもの年齢による遊具を評価した写真と記述

##### ■ 1人あたりの記述件数



■ 保育所を利用している親

■ 幼稚園を利用している親



**【満足】**  
「鉄棒代わりに子供が楽しそうだから」

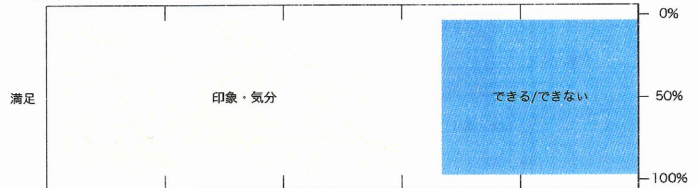


**【不満】**  
「遊具が少ないから」

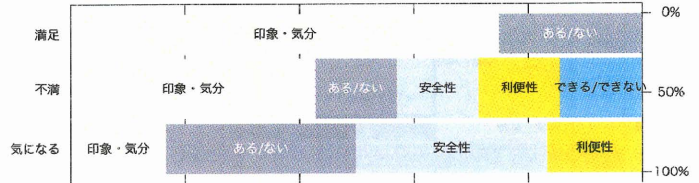


**【不満】**  
「緑が多いのはいいが、遊具が全くなく暗い感じがするから」

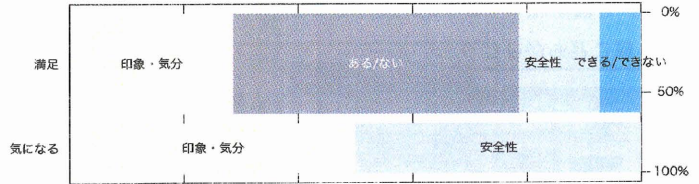
■ 保育所を利用している親



■ 幼稚園を利用している親



■ その他の保育サービスを利用している親



■ 保育サービスを利用していない親

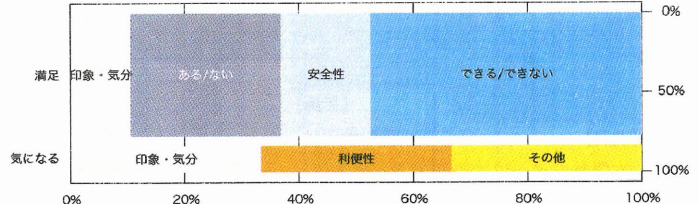


図4-26 利用している保育サービスによる遊具に対する認識の割合

■ 男の子の親

**【満足】**  
「いい遊び場があるから」

**【満足】**  
「あちこち色々遊具があるからどこでも遊べる」

■ 女の子の親

**【満足】**  
「遊具が多いから」

**【不満】**  
「遊具が少ないから」

■ 1人あたりの記述件数

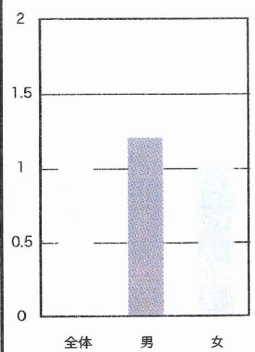


図4-27 こどもの性別による遊具を評価した写真と記述

■ その他の保育サービスを利用している親

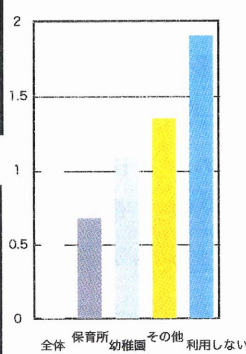


**【気になる】**  
「定期検査の怠りは事故につながるから」

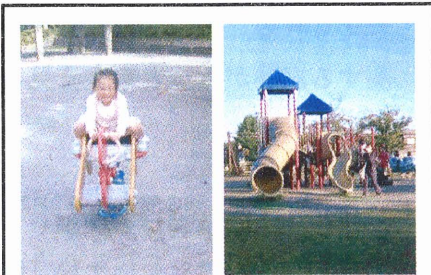


**【気になる】**  
「遊具が一つあるが周囲は木機でうっそうとして、ひっそりしているので、やさみしいから」

■ 1人あたりの記述件数



■ 保育サービスを利用していない親



**【満足】**  
「この遊具は小さい子から小学生まで遊べるから」



**【満足】**  
「河原の遊具はさんぽもできるしあそべるから」

図4-25 利用している保育サービスによる遊具を評価した写真と記述

に関する評価の割合は満足が約60%で類似している。だが男の子の親は「永山南公園はいい遊び場があるから満足」、「公園のあちこちに遊具があるからどこでも遊べる」など都市環境の中に遊具があることから満足を得ている。女の子の親の評価は「公園に遊具が多いから満足」、「第一公園は遊具が少ないから不満」など遊具の量に関する記述が多く見られた（図4-

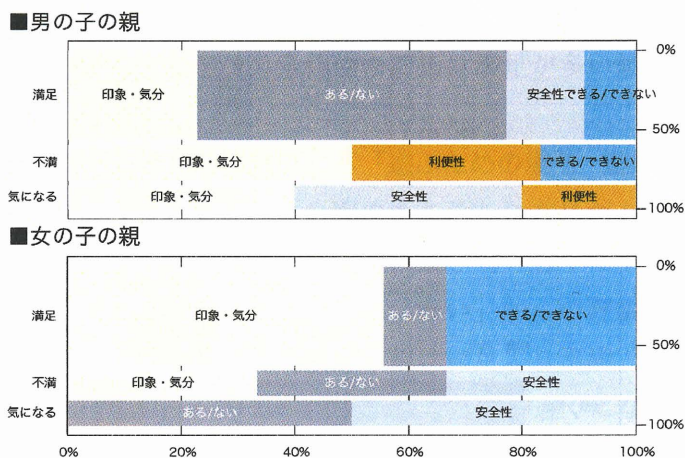


図4-28 子どもの性別による遊具に対する認識の割合

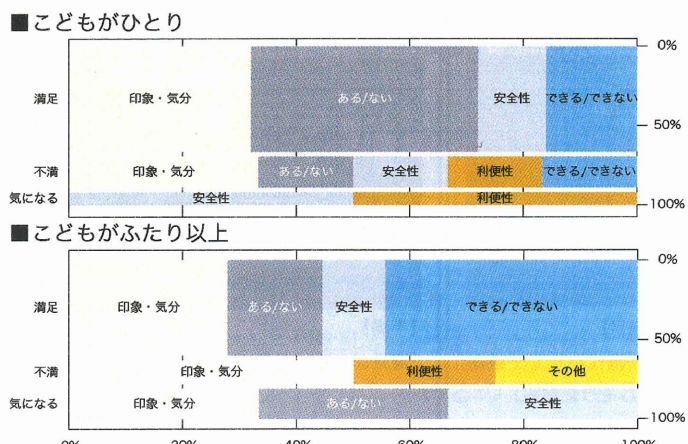
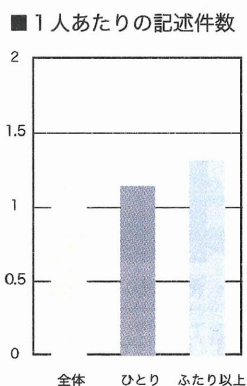


図4-30 子どもの人数による遊具に対する認識の割合

■子どもがひとり

【満足】  
「支援センターはオモチャがたくさんあり、広々しているから」



■子どもがふたり以上

【満足】 「スプリング遊具は子供が遊べるから」

【満足】 「砂場で子供が遊べるから」

【満足】 「複合遊具は子供がいろいろな遊びができるから」

図4-29 子どもの人数による遊具を評価した写真と記述

27, 28).

#### D.4.4 子どもの人数による「遊ぶための場所・遊具」

子どもがひとりの親は、遊具を取り上げた理由の構成は全体と大きく変わらない。「子ども支援センターはおもちゃがたくさんあり、広々しているから満足」など、遊具があることから満足と評価している事がもっとも多い。子どもがふたり以上の親は「スプリング遊具は子どもが遊べるから満足」、「砂場は子どもが遊べるか

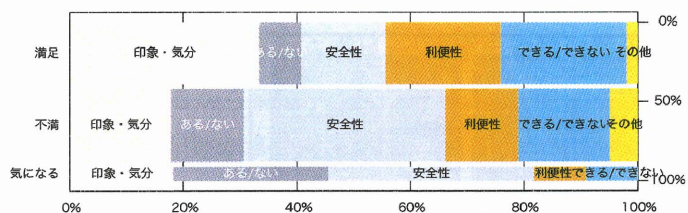


図4-31 全被験者における道に対する認識の割合

ら満足」、「複合遊具は子供がいろいろな遊びができるから満足」など、特定の遊具について評価している例が多い(図4-29, 30)。

#### D.5 親の属性による環境認識の比較～道

ルートは不満と評価した割合が約50%であり、満足度が低い環境の要因と考えられる。ルート进行评估するにあたっては安全性に関する記述がもっとも多く見られた(図4-31)。

##### D.5.1 子どもの年齢による「道」

子どもの年齢が0, 1, 2歳児の親は満足と評価した割合が多少高く、不満と評価した記述においては「横断歩道で横断するには見通しが悪く危険だから」、「狭い車道の割合には車が多くて危険だから」など安全性に関するものも多く見られた。子どもの人数がふたりの親は不満と評価した割合が高く、「公園の出入口で子供が多いが車道でとぼしてくるから不満」など安全性に関する記述が多い。だが、「狭い歩道はすれ違うときに危険だから」、「トンネル内がカーブしているため、入口反対側からくる自転車がお互い見えないから」など「できる/できない」ことによる安全性への評価も多く見られているのが特徴である(図4-32, 33)。

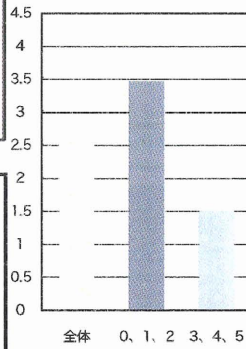
##### D.5.2 利用している保育サービスによる「道」

■ 0, 1, 2 歳児の親

【不満】  
「横断するには見通し  
が悪く危険だから」

【不満】  
「狭い車道の割合には  
車が多くて危険だから」

■ 1人あたりの記述件数



■ 3, 4, 5 歳児の親

【不満】  
「狭い歩道はすれ違い  
時に危険だから」

【不満】  
「トンネル内がカーブし  
ている為、入口から反対  
側から来る自転車がお互  
い見えないから」

■ 保育所を利用している親

【満足】  
「花がさいていて景色  
がきれいだから」

【満足】  
「整備されているしひ  
とつずつデザインが  
違って歩いてい  
ても楽しめるから」

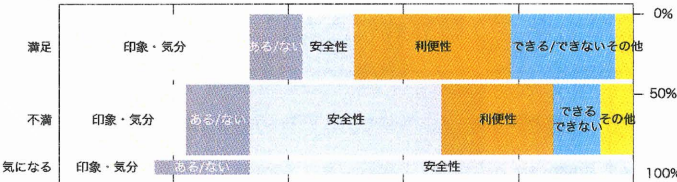
■ 幼稚園を利用している親

【不満】  
「遊歩道なのに自転車  
が猛スピードで坂から降  
りてきて木々で見通しが  
悪く歩行者と衝突しそ  
うになるから」

【満足】  
「歩行用通路は車のな  
い所を歩けるから」

図4-3-2 こどもの年齢による道を評価した写真と記述

■ 0, 1, 2 歳児の親



■ 3, 4, 5 歳児の親

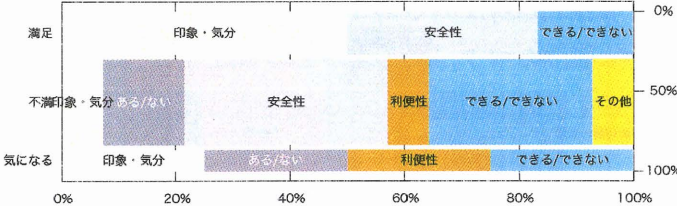


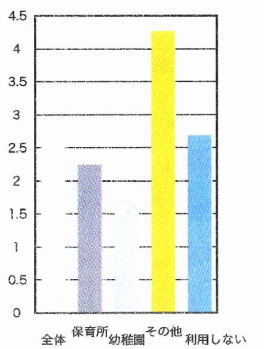
図4-3-3 こどもの年齢による道に対する認識の割合

■ その他の保育サービスを利用している親

【不満】  
「ガードレールが途切  
れており、隙間も大  
きい為、子供が車道  
に出て危険だから」

【不満】  
「車は入れない道だが、自  
転車やバイクが結構ス  
ピードを出して走って  
いることが多いから」

■ 1人あたりの記述件数



■ 保育サービスを利用していない親

【満足】  
「スロープが全体に広  
くなったから」

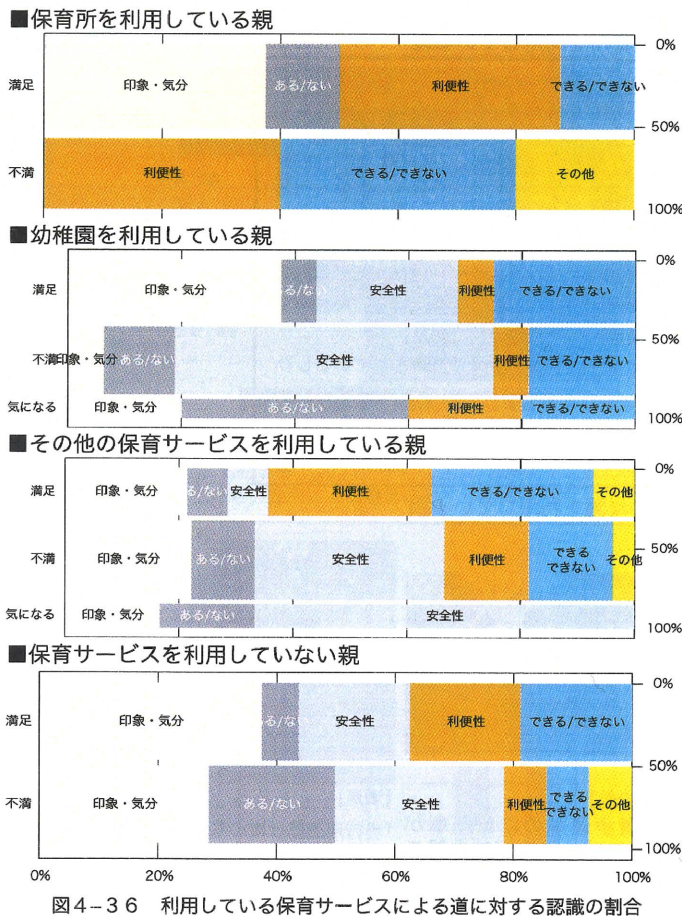
【満足】  
「子供から大人まで散  
歩を楽しめるから」

【不満】  
「子供が横断する時、  
特に夕方以降車も多  
く危ないから」

【満足】  
「敷地内ですが降りてすぐ  
の車道で、子供も使っ  
ているから」

図4-3-4 利用している保育サービスによる道を評価した写真と記述1

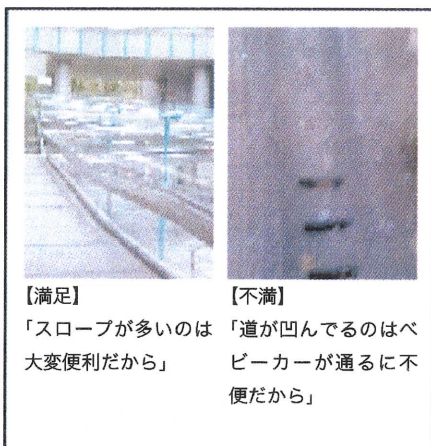
保育所を利用している親は「道の景色がきれいだから」、「遊歩道は整備されているしひとつずつデザインが違って歩いていても楽しめるから」など印象・気分により満足と評価している例が多く見られる。幼稚園を利用している親は不満と評価した割合が高く、全体的に安全性に



■ 男の子の親



■ 女の子の親



■ 1人あたりの記述件数

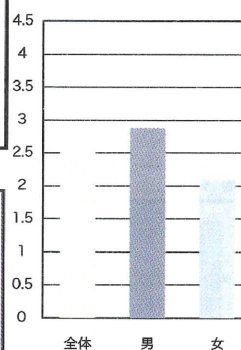


図4-37 こどもの性別による道の評価した写真と記述

■ 男の子の親

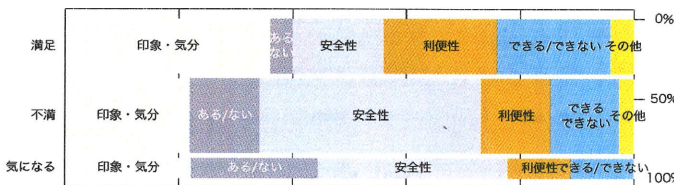


図4-38 こどもの性別による道に対する認識の割合

よる記述が多く見られた。「遊歩道なのに自転車が猛スピードで坂から降りてきて木々で見通しが悪く歩行者と衝突しそうになるから不満」、「遊歩道で自転車と歩く人が一緒なので歩行者には危険なことがあるから不満」などの例が取り上げられている。その他の保育サービスを利用している親も不満と評価した割りあいが高く、その理由については満足、不満の評価両方とも安全性に関するものも多く見られた。「ガードレールが途切れており、隙間も大きいので、子供が車道に出て危険だから」、「車は入れない道だが、自転車やバイクが結構スピードを出して走っていることが多く危険だから」など移動手段からの危険を記述している例が多い。保育サービスを利用していない親は満足と不満の評価が50%であるが、理由の記述においては、満足は「スロープが広いから」、「歩道がきれいになったから」などの印象・気分からのものも多く、不満は「子供が横断する時、特に夕方以降車も多く危ないから」、「階段を降りてすぐの車道は子供も使っているから」など安全性からのものも多く見られている（図4

-34, 36)。

D.5.3 こどもの性別による「道」

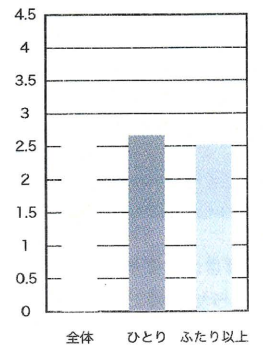
男の子の親はルートに対して不満と評価した割合が高く、「交差点に信号がなくて、車優先で早く走っているから危ない」、「並木橋は橋と交わる道路が狭くて、夕方は車が非常に多くて危険だから」などルートについての車からの危険性について述べている記述が多く



■こどもがひとり



■1人あたりの記述件数



■こどもがふたり以上



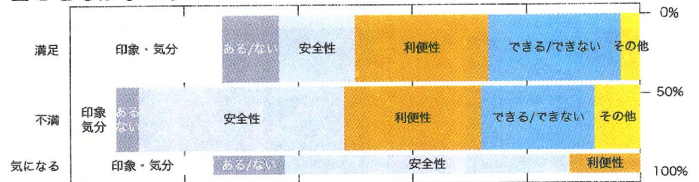
図4-39 こどもの人数による道を評価した写真と記述

見られる。女の子の親は不満と評価した割合が高く、全体的にルートを撮影した理由においては利便性から評価している例が多い。「スロープが多いのは大変便利だから」、「道が凹んでいるのはベビーカーが通るに不便だから」などの例が取り上げられている。男の子の親の方が安全性に関する不満を示している記述が多いことは、男の子の方が女の子より活発に行動すると考えられることに起因する(図4-37, 38)。

D.5.4 こどもの人数による「道」

こどもがひとりの親は満足と不満の割合は大きく差はなく、全体的にルートを評価した理由において、「道路整備をしてベビーカーが通りやすいから満足」、「緩やかなスロープは歩きやすいから満足」などの利便性から、「小道は車や自転車が通らず子供でも安全だから満足」、「横断歩道がカーブの末端にあってちょっと危険だから不満」などの安全性からの記述が多く見られる。こどもがふたり以上の親は「せせらぎの脇の道は楽しいから満足」、「坂道でこどもが気持ちよく自転車

■こどもがひとり



■こどもがふたり以上

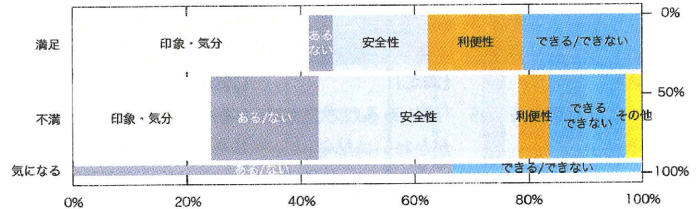


図4-40 こどもの人数による道に対する認識の割合

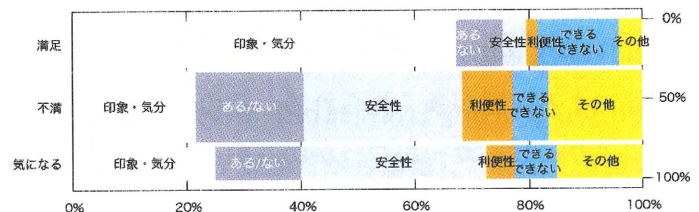


図4-41 全被験者における道にある事物に対する認識の割合

で遊ぶから満足」、「団地の前の道は車道が狭いから不満」などの印象・気分からの記述が多い傾向がある(図4-39, 40)。

D.6 親の属性による環境認識の比較 ～道にある事物

道にある事物は取り上げられた件数が最も多い環境要素であり、評価の割合においては不満が高く、その理由は安全性による記述が多く見られている。満足と評価された理由としては印象・気分によるものが多い傾向がある(図4-41)。

D.6.1 こどもの年齢による「道にある事物」

0, 1, 2歳児の親は道にある事物への不満が非常に高く、主な理由としては「段差が高いから危ない」、

■ 0, 1, 2 歳児の親

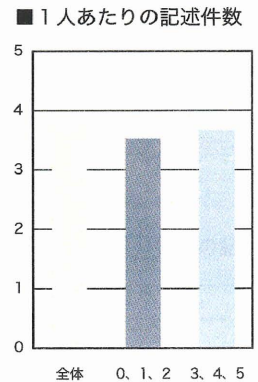
【不満】 「溝にはさまるのがケガしそうで危険だから」

【不満】 「ベビーカーがつかかるから」

【不満】 「ベビーカーの車輪がはまってしまうから」

【満足】 「段差も無く、水も流れていて雰囲気が良いから」

【満足】 「カバーがベビーカーの脱輪を防ぐから」



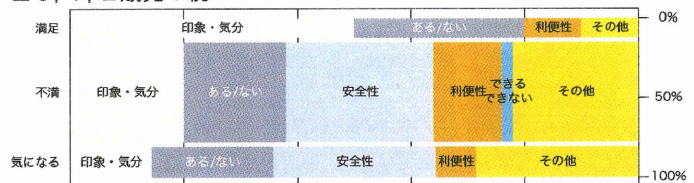
■ 3, 4, 5 歳児の親

【満足】 「オブジェがおもしろいから」

【満足】 「道にあるかざりものがかわいいから」

【満足】 「落ち葉を踏む音が楽しそうだから」

■ 0, 1, 2 歳児の親



■ 3, 4, 5 歳児の親

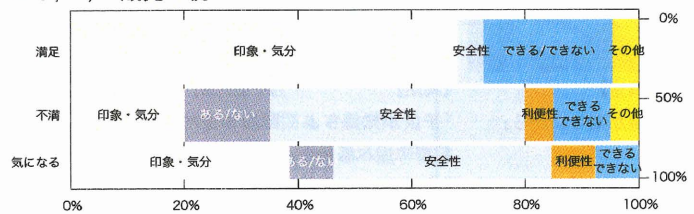


図4-42 こどもの年齢による道にある事物を評価した写真と記述

図4-43 こどもの年齢による道にある事物に対する認識の割合

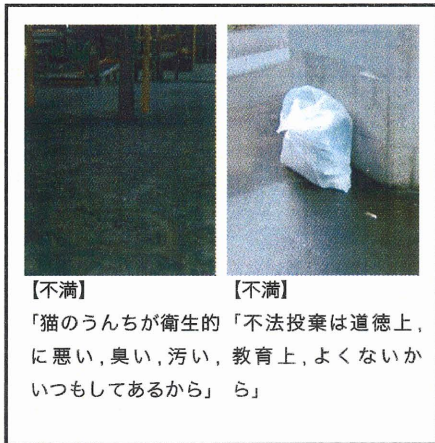
「溝にはさまるのがケガしそうで危険だから」など、安全性による記述が多く見られる。その他の記述に「段差によりベビーカーがつかかるから」、「排水溝にベビーカーがはまってしまうから」などベビーカーを使用するにあたって路面とのギャップによる不満が多いのは0, 1, 2 歳児ならではの特徴だと考えられる。不満と評価している記述が多い中、満足と取り上げている理由は「段差もなく、水も流れていて雰囲気が良いから」、「側溝のフタのカバーがベビーカーの脱輪を防ぐから」などの記述が見られる。3, 4, 5 歳児の親は満足と評価した割合が高く、「せせらぎにおいてあるオブジェがおもしろいから」、「道にあるかざりものがかわいいから」、「落ち葉を踏む音が楽しそうだから」などの印象・気分による記述が多く見られる（図4-42, 43）。

D.6.2 利用している保育サービスによる「道にある事物」

保育所を利用している親は不満と評価している割合

が高く、全体的には「猫のウンチが衛生的に悪い、臭い、汚いから不満」、「ゴミの不法投棄は道徳上、教育上、良くないから不満」、「お店の前のかわいい犬の置物をこどもが通るたびさわっているから満足」などの印象・気分による記述が多い傾向がある。幼稚園を利用している親は唯一道にある事物に対して満足と評価している割合が高く、「案内板に絵が入っていて見て楽しいから」、「どんぐり拾いが楽しそうだから」、「さくらは春になったらきれいだから」など印象・気分による満足の評価が非常に多く見られる。その他の保育サービスを利用している親は不満と評価した割合が高く、中でも「段差によりベビーカーがつかかるから」などベビーカーを使用するときの不満や「歩道の段差が大きい上に歩道がななめになっていて危険だから」など、安全性による不満の評価が多く見られる。保育サービスを利用していない親は不満と評価した割合が高く、「でこぼこな歩道タイルでベビーカーがガタガタするから」、「踏切の線路の穴にベビーカーのタイヤがはまる

■保育所を利用している親



■保育サービスを利用していない親



■幼稚園を利用している親



■その他の保育サービスを利用している親

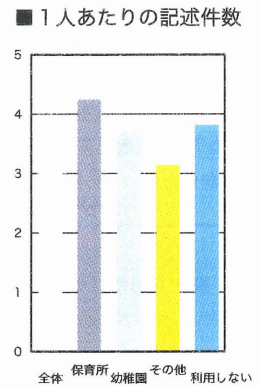
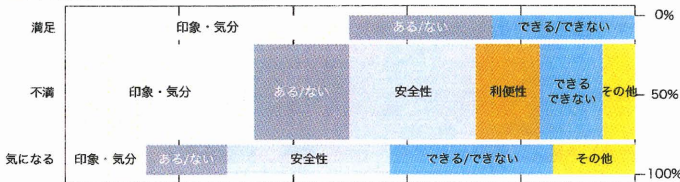
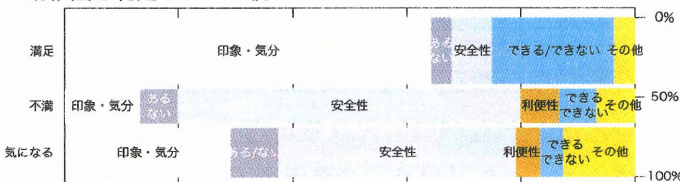


図4-45 利用している保育サービスによる道にある事物を評価した写真と記述

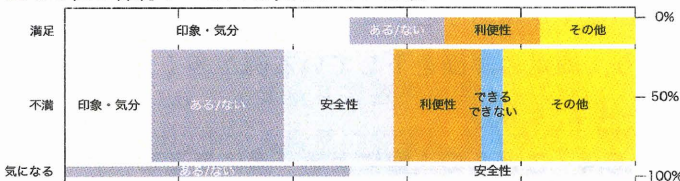
■保育所を利用している親



■幼稚園を利用している親



■その他の保育サービスを利用している親



■保育サービスを利用していない親

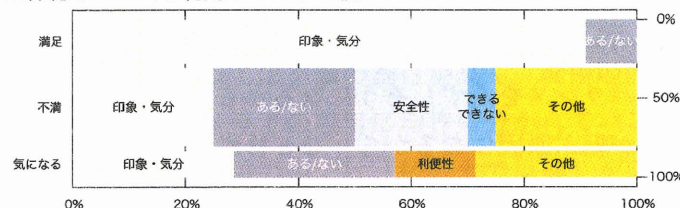


図4-46 利用している保育サービスによる道にある事物に対する認識の割合

から」などベビーカーの使用に起因する記述が多く、全体的には「家の近くの車止めは子供が登ったり飛び降りたりするのが好きだから満足」、「どんぐり拾いは自然のぬくもりが子供に伝わるから満足」、「不思議ななどの植物が木から生えているから気になる」など、印象・気分による記述が最も多く見られる(図4-45, 46)。

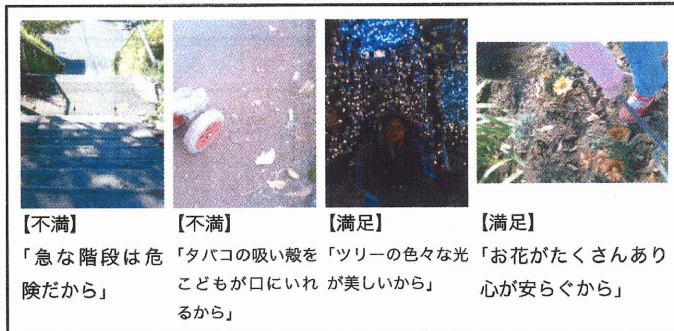
D.6.3 こどもの性別による「道にある事物」

男の子の親は不満と評価している割合が高く、「ゴミがたくさん落ちているから」、「歩道に電柱、ポールがあつて歩きにくいから」など路上においてあるものについて不満を示している例や「子供がたくさんいるところなのにオブジェが割られていたりベンチの板がはずれていたりして危険だから」、「コンクリートのブロックが置いてあり子供がその上に乗り降りしたが危険」など道の上においてある様々な事物から安全性について述べている例が多く見られた。女の子の親は不満の評価が多少高く、その理由については安全性からの記

■男の子の親



■女の子の親



■1人あたりの記述件数

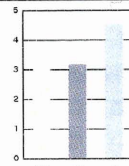
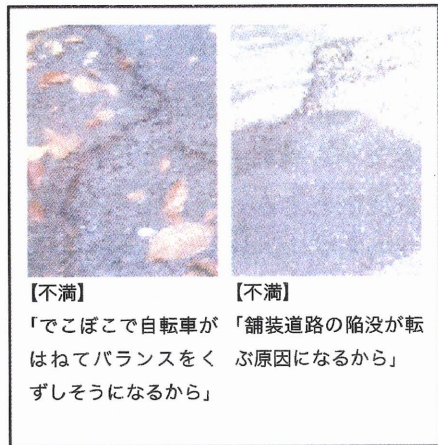


図4-47 子どもの性別による道にある事物を評価した写真と記述

■子どもがひとり



■子どもがふたり以上



■1人あたりの記述件数

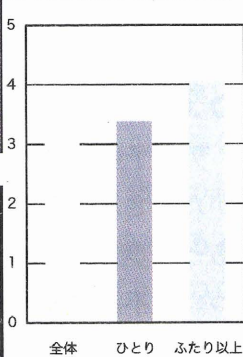
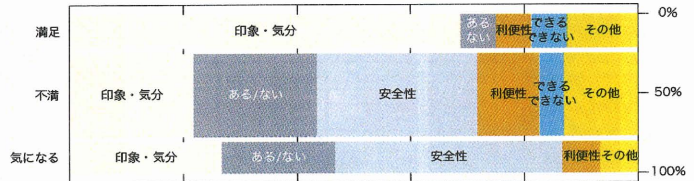


図4-49 子どもの人数による道にある事物を評価した写真と記述

■男の子の親



■女の子の親

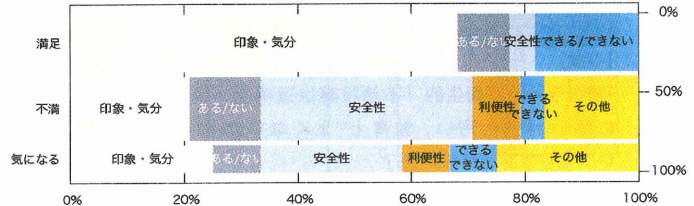
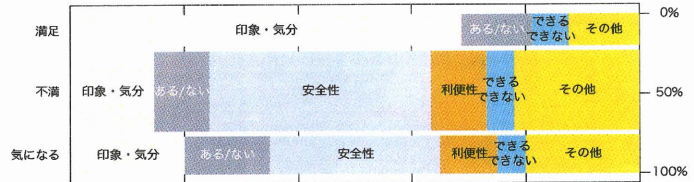


図4-48 子どもの性別による道にある事物に対する認識の割合

■子どもがひとり



■子どもがふたり以上

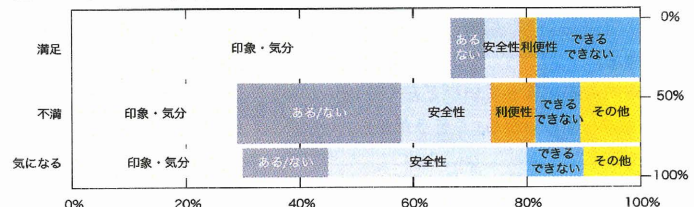


図4-50 子どもの人数による道にある事物に対する認識の割合

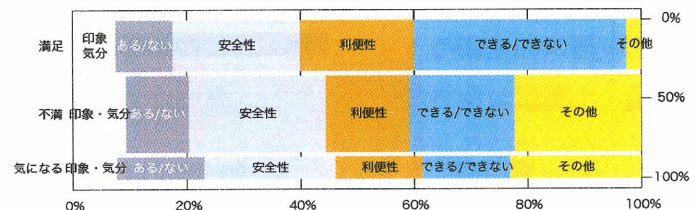




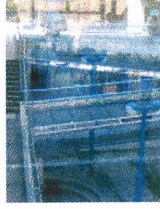

図4-51 全被験者における移動手段に対する認識の割合

述が多く見られる。「急な段差は危険だから」、「タバコの吸殻を子どもが口に入れるから」などの例があげられている。また、「ツリーの色々な光が美しいから」、「お花がたくさんあり心が安らぐから」など印象・気分により、満足の評価を下している例が多く見られる(図4-47, 48)。


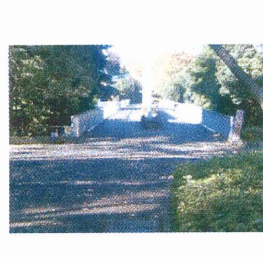
D.6.4 子どもの人数による「道にある事物」

子どもがひとりの親は不満と評価した割合が高く、その理由においては「路面のでこぼこで自転車がはねてバランスをくずしそうになるから」、「舗装道路の陥没が転ぶ原因になるから」など移動をするにあたって路面とのギャップにより生じる危険性から不満と評価している。子どもがふたりの親は「秋桜で街並みが明

■ 0, 1, 2 歳児の親

			
【不満】 「ベビーカーの車輪がはまるから」	【不満】 「でこぼこなタイルでベビーカーがガタガタするから」	【満足】 「スロープはベビーカーを押しやすいから」	【満足】 「ベビーカーが通りやすいから-駅の裏側の道」

■ 3, 4, 5 歳児の親

	
【不満】 「でこぼこで自転車はねてバランスをくずしそうになるから」	【不満】 「遊歩道なのに自転車が猛スピードで坂から降りてきて木々で見通しが悪く歩行者と衝突しそうになるから」

■ 1人あたりの記述件数

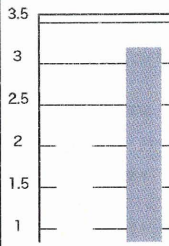
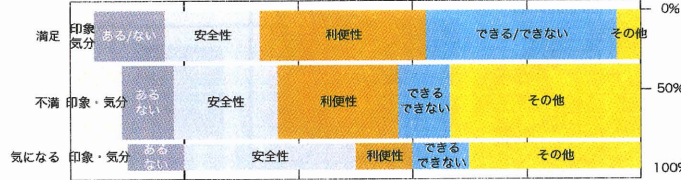


図4-52 こどもの年齢による移動手段を評価した写真と記述

■ 0, 1, 2 歳児の親



■ 3, 4, 5 歳児の親

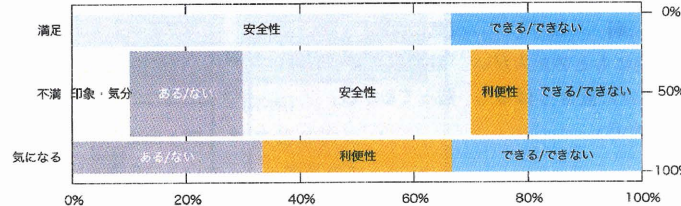


図4-53 こどもの年齢による移動手段に対する認識の割合

るくなるから」、「せせらぎで散歩が楽しいから」など道にある事物の中でも自然の要素により満足と評価している傾向が強い (図4-49, 50)。

D.7 親の属性による環境認識の比較 ~移動手段

移動手段においては不満の割合が高く、理由の記述の割合については全ての項目に均等に分かれている傾向がある。移動手段の中では「桜の木で見通しが悪いから車はほとんどの場合歩行者に気づきにくく止まっ


■ 保育所を利用している親

	
【不満】 「横断歩道で渡るとき段差があってベビーカーを持ち運ばなきゃならないから」	【不満】 「ベビーカーが通れなかったことがあるから」

■ 幼稚園を利用している親

	
【満足】 「歩行用通路は車の歩行用通路は車の」	【不満】 「遊歩道なのに自転車が猛スピードで坂から降りてきて木々で見通しが悪く歩行者と衝突しそうになるから」

■ その他の保育サービスを利用している親

	
【不満】 「車は入れない道だが、自転車やバイクが結構スピードを出して走っていることが多く危険だから」	【不満】 「信号がなくで車優先で早く走っているから」

■ 保育サービスを利用していない親

	
【不満】 「団地の前の車道が狭いから」	【不満】 「子供が横断する時、特に夕方以降車も多く危ないから」

■ 1人あたりの記述件数

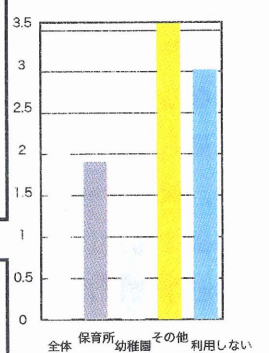


図4-54 利用している保育サービスによる移動手段を評価した写真と記述

てくれない」, 「交差点に信号がなくて車が速くはしっているから」など車による不満の記述が多く, 逆に「車が通らないので子供が自転車で走っても安心だから」, 「小道は車が通らず子供でも安全だから」車が通らないところから満足と評価している例が多く見られた(図4-51).

### D.7.1 こどもの年齢による「移動手段」

0, 1, 2歳児の親が3, 4, 5歳児の親に比べて移動手段に対する満足度は高いが両方とも不満の割合が高い傾向がある. 0, 1, 2歳児は満足と不満両方とも理由に取り上げられた最も多い意見はベビーカーの使用に関する記述である. 満足に関する3, 4, 5歳児の親は不満の割合が高く, その理由については自転車や車による安全性に関するものが最も多く見られた(図4-52, 53).

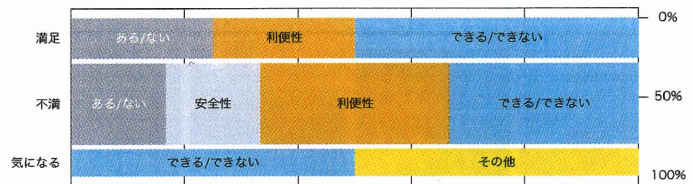
### D.7.2 利用している保育サービスによる「移動手段」

保育所を利用している親は不満の評価が高く, 全体的には「歩道の段差はベビーカーを持ち運ばなきゃならない」などベビーカーを利用するにあたっての利便性や, 「狭い出口ではベビーカーが通りにくい」などベビーカーで進行しにくいことからの不満などが多く見られた. 幼稚園を利用している親は移動手段において安全性についての記述が非常に多く見られ, 記述内容においては「自転車と歩く人がいっしょなので歩行者には危険」, 「遊歩道なのに自転車が猛スピードで坂から降りてきて木々で見通しが悪く歩行者と衝突しそうになるから」など, 車より自転車を意識した記述が多く見られた. その他の保育サービスを利用している親と, 保育サービスを利用していない親は, 移動手段を評価する要因が全体と比べて変わらない傾向があり, 移動手段においては保育所と幼稚園を利用している親が移動手段の認識と評価に特徴があると考えられる(図4-54, 55).

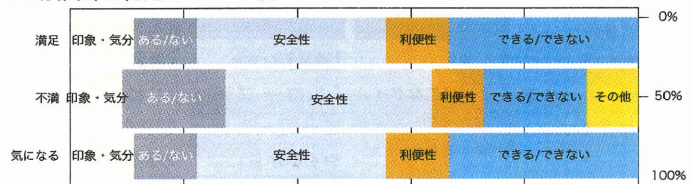
### D.7.3 こどもの性別による「移動手段」

男の子を持つ親は不満と評価した割合が高く, 全体と比べて理由の構成は変化がない. 女の子を持つ親は, 満足と評価した割合が低く, 印象・気分により評価している記述がないという特徴がある. 男の子を持つ親も, 女の子を持つ親も全体の構成と差がないことか

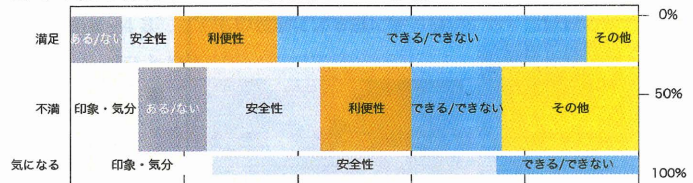
#### ■保育所を利用している親



#### ■幼稚園を利用している親



#### ■その他の保育サービスを利用している親



#### ■保育サービスを利用していない親

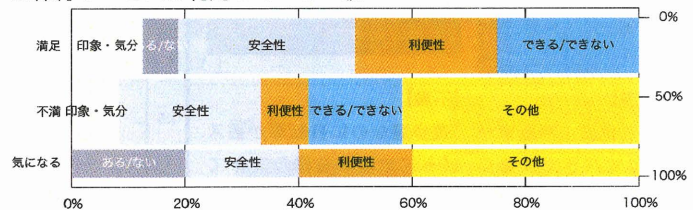


図4-55 利用している保育サービスによる移動手段に対する認識の割合

#### ■男の子の親



#### ■女の子の親



#### ■1人あたりの記述件数

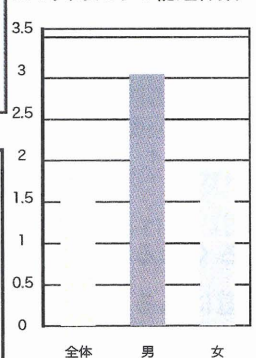
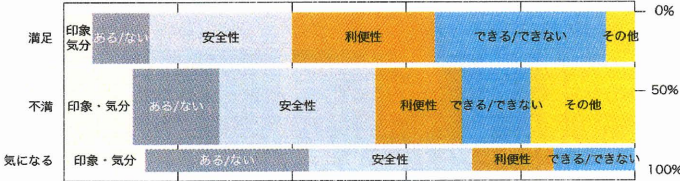


図4-56 こどもの性別による移動手段を評価した写真と記述

■ 男の子の親



■ 女の子の親

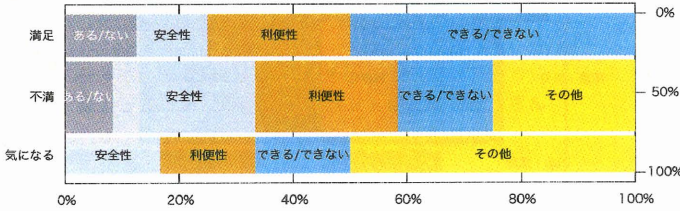
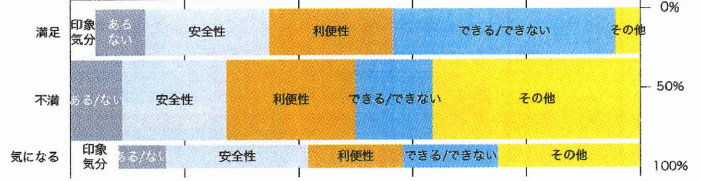


図4-57 こどもの性別による移動手段に対する認識の割合

■ こどもがひとり



■ こどもがふたり以上

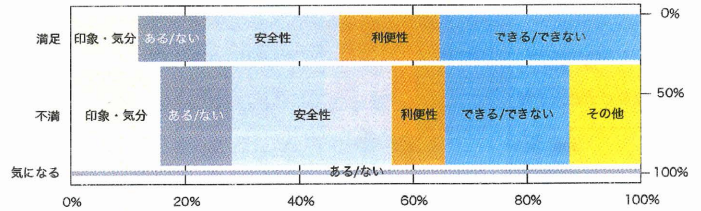
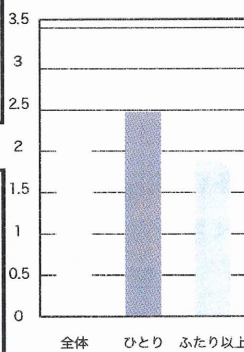


図4-59 こどもの人数による移動手段に対する認識の割合

■ こどもがひとり



■ 1人あたりの記述件数



■ こどもがふたり以上

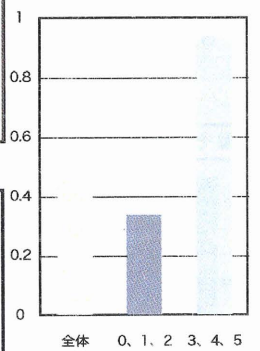


図4-58 こどもの人数による移動手段を評価した写真と記述

■ 0, 1, 2歳児の親



■ 1人あたりの記述件数



■ 3, 4, 5歳児の親

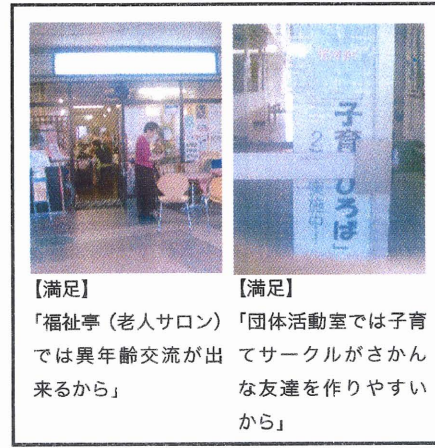


図4-61 こどもの年齢による人的環境を評価した写真と記述

ら、移動手段において、こどもの性別は環境を評価するにあたって影響を与えていないと考えられる(図4-56, 57)。

D.7.4 こどもの人数による「移動手段」

こどもがひとりの親と二人以上の親、両方とも移動手段に対する不満の評価が高く、理由の記述においても類似した結果となった。こどもの人数は移動手段を認識するにあたって影響を与えていないと考えられる

(図4-58, 59)。

D.8 親の属性による環境認識の比較～人的環境

都市環境の中で人的環境に関する記述は多くはないが、評価の割合においては満足度が高い要素である。満足と評価した理由においては印象・気分によるものが最も多く、不満と評価した理由は「~ができる/できない」に関する記述が多く見られた(図4-60)。

D.8.1 こどもの年齢による「人的環境」

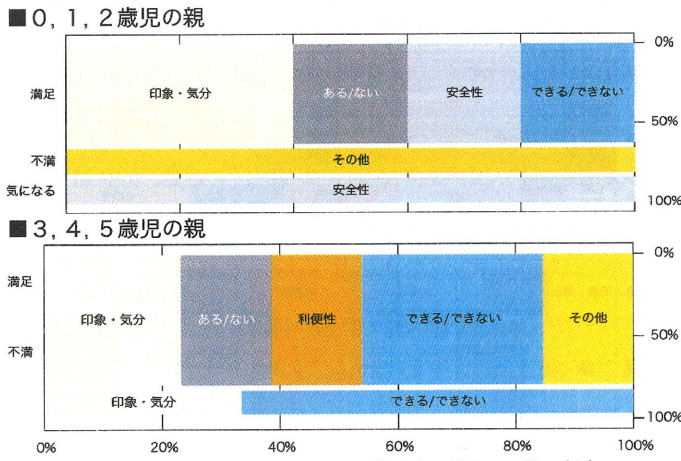


図4-6 2 こどもの年齢による人的環境に対する認識の割合

■ 保育所を利用している親 ■ 幼稚園を利用している親

<p>【不満】 「保育園が満員だから」</p>	<p>【満足】 「周辺の住民がよく手入れしているから」</p>	<p>【満足】 「お掃除の人が多から」</p>
-----------------------------	-------------------------------------	-----------------------------

■ その他の保育サービスを利用している親

<p>【満足】 「学童では子どもが機嫌良く遊べるから」</p>	<p>【満足】 「人々が集う公園は安心して遊べるから」</p>
-------------------------------------	-------------------------------------

■ 保育サービスを利用していない親

<p>【満足】 「子供がいっぱいて子育ての環境としてよいから」</p>	<p>【満足】 「子供支援センターには色々おもちゃがあるし、友達もたくさんいるから」</p>
-----------------------------------------	----------------------------------------------------

図4-6 3 利用している保育サービスによる人的環境を評価した写真と記述

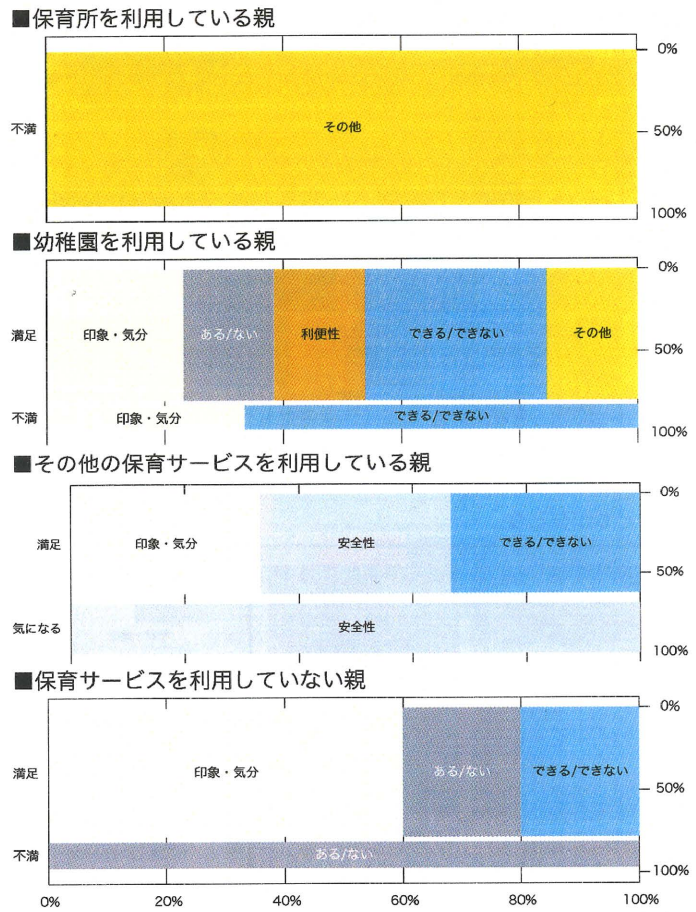


図4-6 4 利用している保育サービスによる人的環境に対する認識の割合

0, 1, 2 歳児の親は印象・気分による満足の評価が多いが、それ以外にも「人々が集う公園は安心して遊べるから」、「子育て支援センターにはおもちゃもあるし、友達もたくさんいるから」など人が集まることから安心感を得ている例も見られた。3, 4, 5 歳児は「福祉亭(老人サロン)は異年齢交流ができるから」、「団体活動室は子育てサークルがさかんな友達を作りやすいから」など、人との交流を求めて様々な施設を積極的に利用している例が見られた(図4-6 1, 6 2)。

### D.8.2 利用している保育サービスによる「人的環境」

保育所を利用している親が人的環境について評価した件数は極めて少なく、「保育園が満員だから不満」という意見が見られる程度である。幼稚園を利用している親は人的環境に関する記述が非常に多く、「花壇を周辺の住民がよく手入れしているから」、「道にお掃除の人が多から」など身の回りの人的環境に関心を持っていると考えられる例が多く見られた。その他の保育サービスを利用している親は人的環境に対して満足の割合が多いが、人的環境を評価した件数が少なく、「人




■ 男の子の親



【満足】  
「人が集まってにぎやかだから」

【満足】  
「イベントは子供もたくさん集まって楽しいから」

■ 女の子の親



【満足】  
「世帯間交流フラダンは社会性が養えると思うから」

【満足】  
「団体活動室では子育てサークルがさかんな友達を作りやすいから」

■ 1人あたりの記述件数

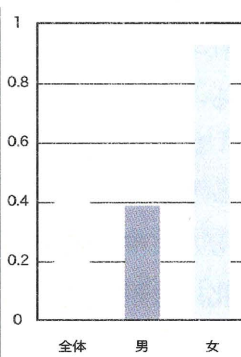


図4-65 こどもの性別による人的環境を評価した写真と記述

■ 男の子の親

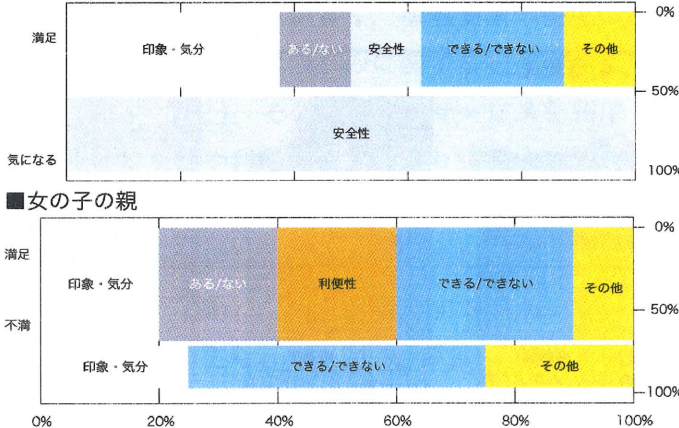


図4-66 こどもの性別による人的環境に対する認識の割合

通りの少ない公園は犯罪の場所になりやすいから気になる」、「人々が集まる公園は安心して遊べるから満足」など、人的環境を安全性から評価している例が多く見られた。保育サービスを利用していない親は「子供がいっぱいいて子育ての環境としてよいから」、「子供を持つ母親同士友達もできるから」など子育て関係の人的環境を意識していると考えられる記述が見られた(図

■ こどもがひとり



【満足】  
「見通しがよいから、人通りが多いから」

【満足】  
「人々が集う公園は安心して遊べるから」

■ こどもがふたり以上



【満足】  
「イベントは子供もたくさん集まって楽しいから」

【満足】  
「子供が同じ団地のお友達と窓越しで会話が出来るから」

■ 1人あたりの記述件数

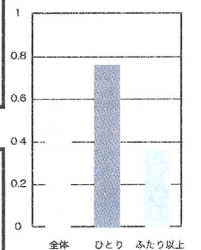
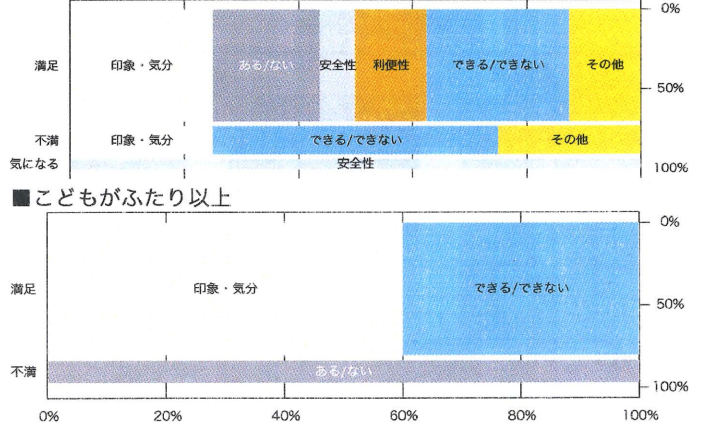


図4-67 こどもの人数による人的環境を評価した写真と記述

■ こどもがひとり



■ こどもがふたり以上

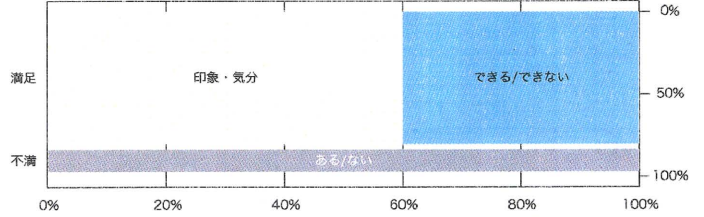


図4-68 こどもの人数による人的環境に対する認識の割合

4-63, 64)。

D.8.3 こどもの性別による「人的環境」

男の子を持つ親は「永山小学校でのバザーは人が集まってにぎやかだから」など印象・気分による満足の評価が多く見られた反面、女の子を持つ親は「フラダンス教室は世帯間交流フラなので社交性が養えると思うから」、「団体活動室では子育てサークルがさかん

友達を作りやすいから」などの社交性のための積極的な意見が多く見られた（図4-65, 66）。

#### D.8.4 こどもの人数による「人的環境」

こどもの人数がひとりの親は「遊具が多い公園はこどもが集まってくるから」、「見通しがよく、一通りが多いから」など、人々が集まることからの満足の記述が多く見られた。こどもの人数がふたり以上の親も同様、「ハロウィンパーティーなどのイベントは子供もたくさん集まって楽しいから」などの記述が見られ、こどもにとって人々が集まることから楽しい印象を受けていると考えられる（図4-67, 68）。

#### D.9 その他

イベントやプログラムに対して満足度が高い。こどもの人数がひとり、こどもの年齢0, 1, 2歳児の親がこども向けのイベントに満足を得ている。こどもが直接体験できるイベントから満足を得ている（図4-69）。

#### D.10 まとめ～こどもの属性による親の環境の認識と評価

以上、環境の要素ごとにこどもの属性により分析した結果を、こどもの属性により整理する。

#### D.10.1 こどもの年齢による環境の認識と評価

建物においては評価の基準に違いがあり、0, 1, 2歳児の親は印象・気分により、3, 4, 5歳児の親はできる/できないなどの機能性を求めている記述が多い。公園においては3, 4, 5歳児の親が印象・気分により記述している割合が非常に高い（図4-70）。遊具においては3, 4, 5歳児の親は評価の理由について問題点と改善の方向を記述するなど、具体的に評価している傾向がある。人的環境においては0, 1, 2歳児の親は人が集まることに、3, 4, 5歳児の親は交流ができることから評価している。こどもの年齢が上がるにつれて、親の社会的関係の構築を求めていると考えられる（図4-69, 70）。

以上から、こどもの年齢が上がるにつれてこどもとコミュニケーションを取りやすくなることからこどもと都市環境を利用するにあたっての評価がより具体化、明確化している傾向がある。

#### D.10.2 利用している保育サービスによる環境の認識と評価

保育サービスは、保育所、幼稚園、その他（保育ママやファミリーサポート、学童保育など）を利用して



図4-69 こどもの年齢による要素と認識の割合

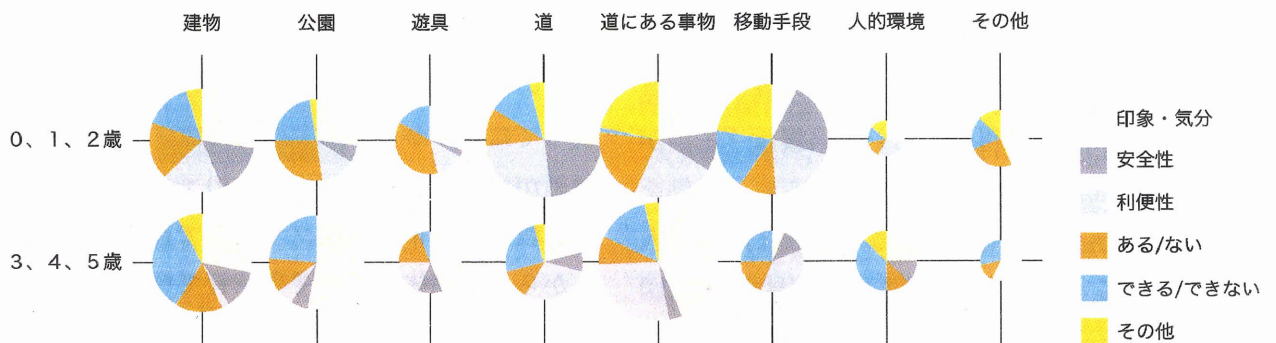


図4-70 こどもの年齢による要素と認識の割合

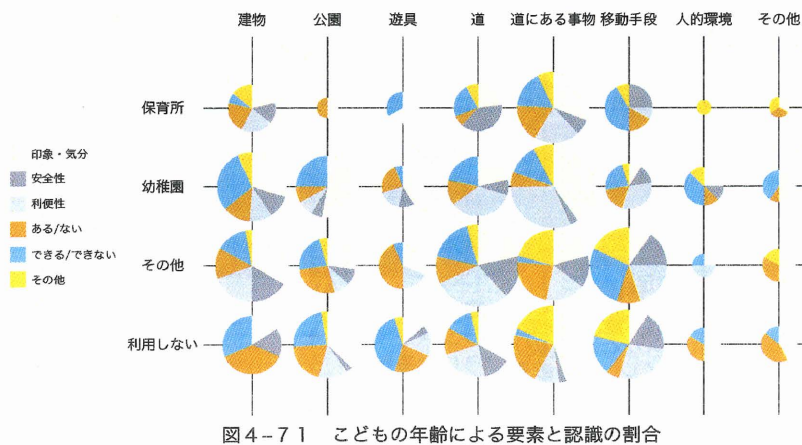


図4-71 こどもの年齢による要素と認識の割合

いる親と利用していない親で4つに分類した。こどもが2人以上いる場合は、親は低年齢のこどもを中心に生活すると考え、低年齢のこどもが利用している保育サービスとして数えた。一週間における平均利用時間は保育所が44.7時間で一番長く、幼稚園が16.1時間、その他が6.2時間である。利用時間が短いほど親子で過ごす時間が長いと考えられる。保育所を利用している親は公園や遊具に関する記述が非常に少なく、他の要素に比べて印象・気分により認識している傾向が強い(図4-71)。幼稚園を利用している親は印象・気分により評価する記述が多く、環境要素の中では道にある事物、中でも自然のものに関する記述が多く見られた(図4-72)。その他の保育サービスを利用している親は安全性や利便性などにより認識する傾向があり、特に建物、道や移動手段に関する記述が非常に多いことから、一定した保育サービスに預けていないために親子で「移動」という行為をすることが多いことに起因すると考えられる(図4-72)。保育サービスを利用しない親は他の親に比べて公園、遊具を評価している割合が高く、保育サービスを利用していないため、公園や街の中でこどもが遊べる様々な環境に目を向けていると考えられる(図4-72, 73)。

以上から、こどもの利用する保育サービスにより親が着目する環境要素に影響を与えられると考えられる。

### D.10.3 こどもの性別による環境の認識と評価

環境要素の認識においては、女の子の親が道にある事物について多くの記述があること以外は大きな差はない。建物など両方に多く評価された要素は理由にお

## 保育所

【満足】 ※公園  
何もなしげの公園が広いから

【満足】 ※道にある事物  
鉄棒の代わりに子供が楽しそうだから

【不満】 ※道にある事物  
猫のうんちが衛生的に悪い、臭い、汚い、いつもしてあるから

---

## 幼稚園

【満足】 ※建物  
広場で遊べるから

【満足】 ※公園  
緑が多くて子供がどろんぐり拾いなどができるから

【満足】 ※道にある事物  
さくらは春になったらきれいだから

---

## その他の保育サービス

【満足】 ※建物, 遊具  
支援センターにはオモチャがたくさんあり、広々しているから

【満足】 ※遊具  
並木公園には遊具が沢山あるから

【不満】 ※道, 移動手段  
信号がなくて車優先で早く走っているから危ない

---

## 保育サービスを利用していない

【満足】 ※遊具  
河原の遊具はさんぽもできるしあそべるから

【満足】 ※道にある事物  
子供が登ったり飛びおたりするのが好きだから

【満足】 ※道にある事物  
話す岩の不思議なカラクリがおもしろいから

図4-72 利用している保育サービスによる撮影された写真と記述

いても類似している。ただ男の子の親は公園において安全性により、移動手段において印象・気分から記述

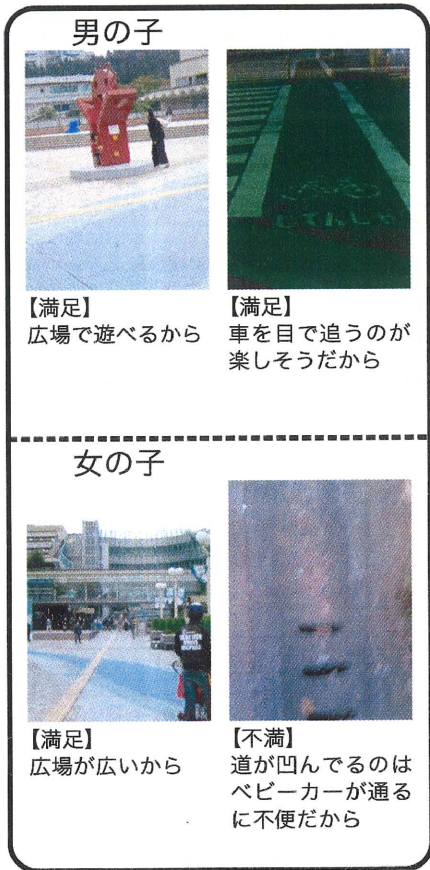


図 4-73 こどもの性別による撮影された写真と記述



図 4-75 こどもの人数による撮影された写真と記述

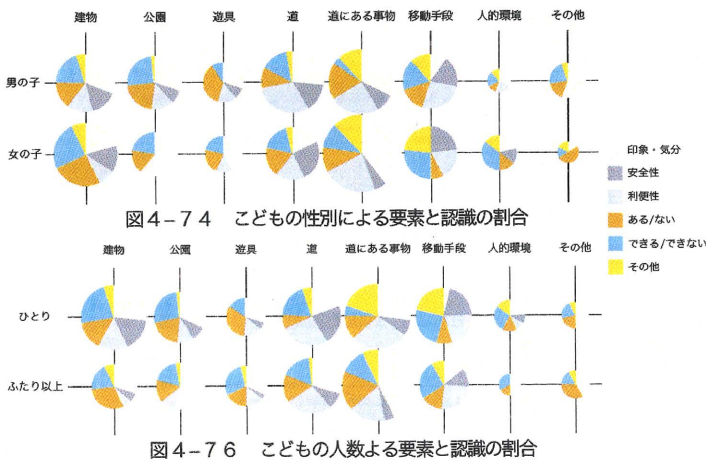


図 4-74 こどもの性別による要素と認識の割合

図 4-76 こどもの人数による要素と認識の割合

している例があった（図 4-73）。0 歳～5 歳児の乳幼児においては親の環境への認識に影響を与えるほどのこどもの性別による特徴は薄いと考えられる。

#### D.10.4 こどもの人数による環境の認識と評価

建物、公園、道、道にある事物においてはこどもがひとりの親は身近なところから必要に迫られることにより環境を認識している傾向がある。こどもがふたり以上の親は印象・気分により認識している傾向が強い（図 4-75, 76）。こどもの人数がふたり以上の親は子

育てが二度目（もしくは二度以上）であり、子育てをするにあたってゆとりがあると考えられる。

#### E. まとめ

##### E.1 心理的要因により評価された環境とこどもの属性

3 章で述べた評価された環境の分布と内訳から、心理的要因により評価される場合と物理的要因により評価される場合があることが分かった。4 章で明らかにしたこどもの年齢により親の評価がより具体化・明確化していることと、利用している保育サービスにより親が着眼する環境要素に違いがあることから、心理的要因により評価されているものは大きくこどもの年齢や保育サービスにより影響されると考えられる。（図 5-1）

①同じく保育園を撮影したが 2 歳児・保育サービスを利用していない親はこどもの遊ぶことへの楽しさから、2 歳児・保育所利用者の親は保育園が満員だということから評価している。

②駅前の広場を撮影したが 1 歳児の親は安全性について、5 歳児の親は印象・気分により評価している。